

館山市の家計簿

令和8年度 当初予算版



読んだ方はご記入をお願いいたします！！

1	市内・市外	男性・女性	歳
2	市内・市外	男性・女性	歳
3	市内・市外	男性・女性	歳
4	市内・市外	男性・女性	歳
5	市内・市外	男性・女性	歳
6	市内・市外	男性・女性	歳
7	市内・市外	男性・女性	歳
8	市内・市外	男性・女性	歳
9	市内・市外	男性・女性	歳
10	市内・市外	男性・女性	歳
11	市内・市外	男性・女性	歳
12	市内・市外	男性・女性	歳
13	市内・市外	男性・女性	歳
14	市内・市外	男性・女性	歳
15	市内・市外	男性・女性	歳

館山市の家計簿

令和8年度 当初予算版



目次

予算とは	・・・	(3)
館山市の予算（令和7年度）	・・・	(4)
一般会計歳入	・・・	(6)
一般会計歳出	・・・	(9)
市債（借金）と基金（貯金）	・・・	(12)
館山市の財政を家計に例えると	・・・	(14)
これからの財政運営のために	・・・	(15)
令和8年度の主な事業	・・・	(17)

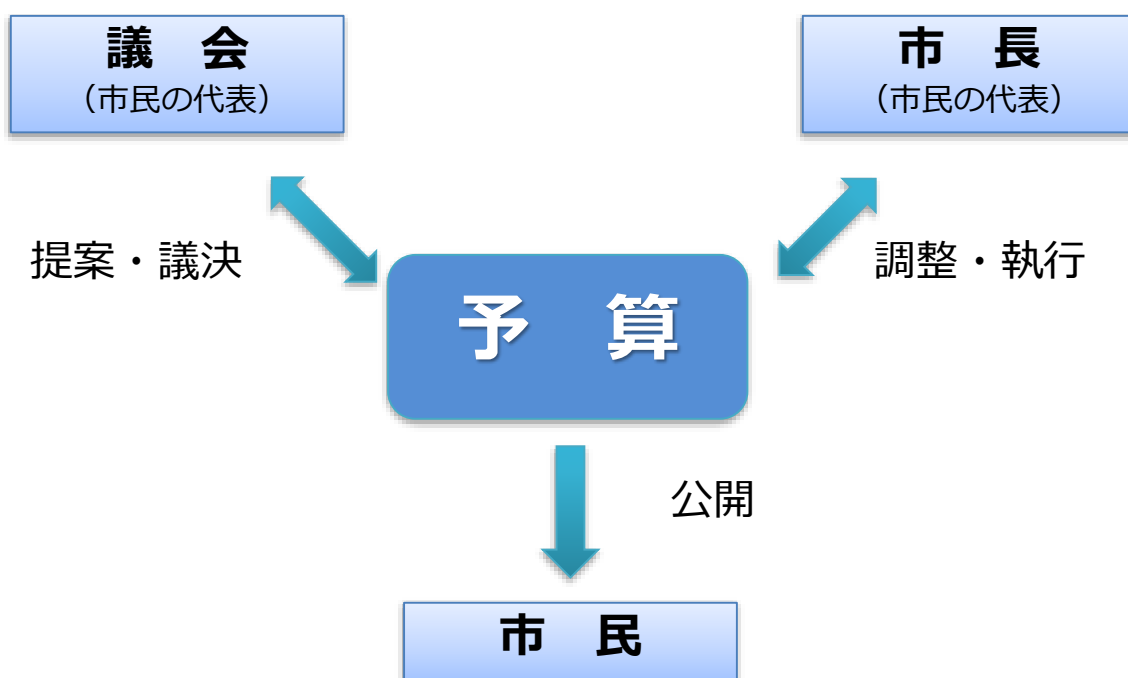
予算とは

館山市に1年間（4月～3月）に入ってくる収入の見積りと、その使い道を表すものが「予算」です。

市長は、予算案を作り市議会へ提出し、市議会の審議と議決により予算が成立します。

予算編成のスケジュール

9月末	市長から来年度予算編成にかかる方針「予算編成方針」を指示
10月	各所属で来年度の事業計画を検討し、予算要望を提出
12月～1月	市長による予算査定を実施 各課の予算要望を「予算案」としてまとめる
2月末	市長が予算案を市議会へ提出 議会での審議
3月	議決により予算が成立



館山市の予算（令和8年度）

▼会計の区分について

収入と支出の関係を明確にするため、「一般会計」「特別会計」「公営企業会計」の3つのグループに区分しています。

一般会計

235 億 6,200 万円

対前年度 +16 億 6,000 万円
(+7.6%)

教育、福祉、防災、道路整備、農水産業、商工観光など市の基本的な行政サービスを行う会計です。

特別会計

133 億 163 万円

対前年度 +2 億 2,205 万円
(+1.7%)

内 国民健康保険

55 億 8,059 万円

対前年度 +2 億 3,084 万円
(+4.3%)

内 後期高齢者医療

11 億 5,373 万円

対前年度 +1 億 8,958 万円
(+19.7%)

内 介護保険

65 億 6,731 万円

対前年度 △1 億 9,837 万円
(△2.9%)

特定の事業を特定の収入によって行い、その収支を明確にするために一般会計から独立させた会計です。

公営企業会計

下水道事業会計

10 億 92 万円

対前年度 +1,237 万円
(+1.3%)

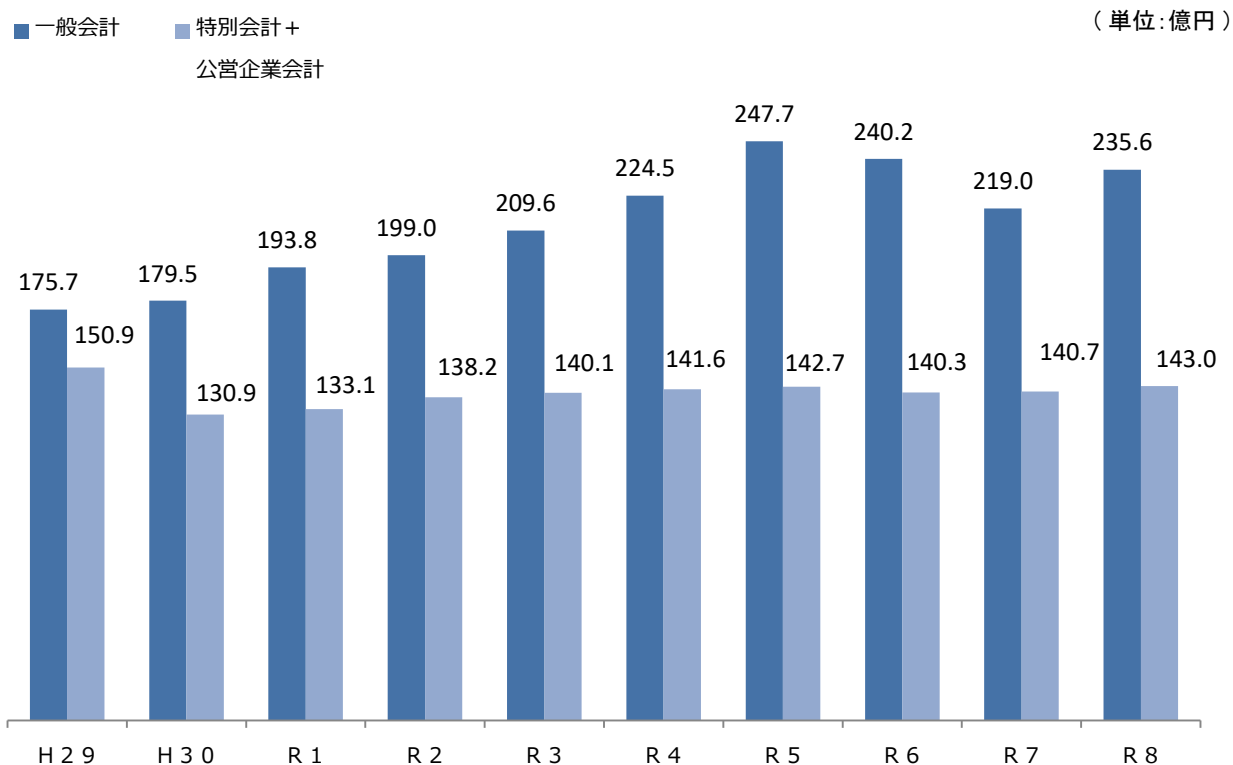
民間企業と同じように、事業で収益をあげて、運営している会計です。

総 計

378 億 6,455 万円

対前年度 +18 億 9,442 万円
(+5.3%)

予算規模の推移と特徴



▼一般会計予算について

一般会計予算の総額は、急激な人口減少においても200億円を超える額となっています。

これは、国全体における物価の上昇や官民給与の増加、高齢化の進展による社会保障関連経費の増に加え、学校再編計画等による大規模事業の実施によるものです。

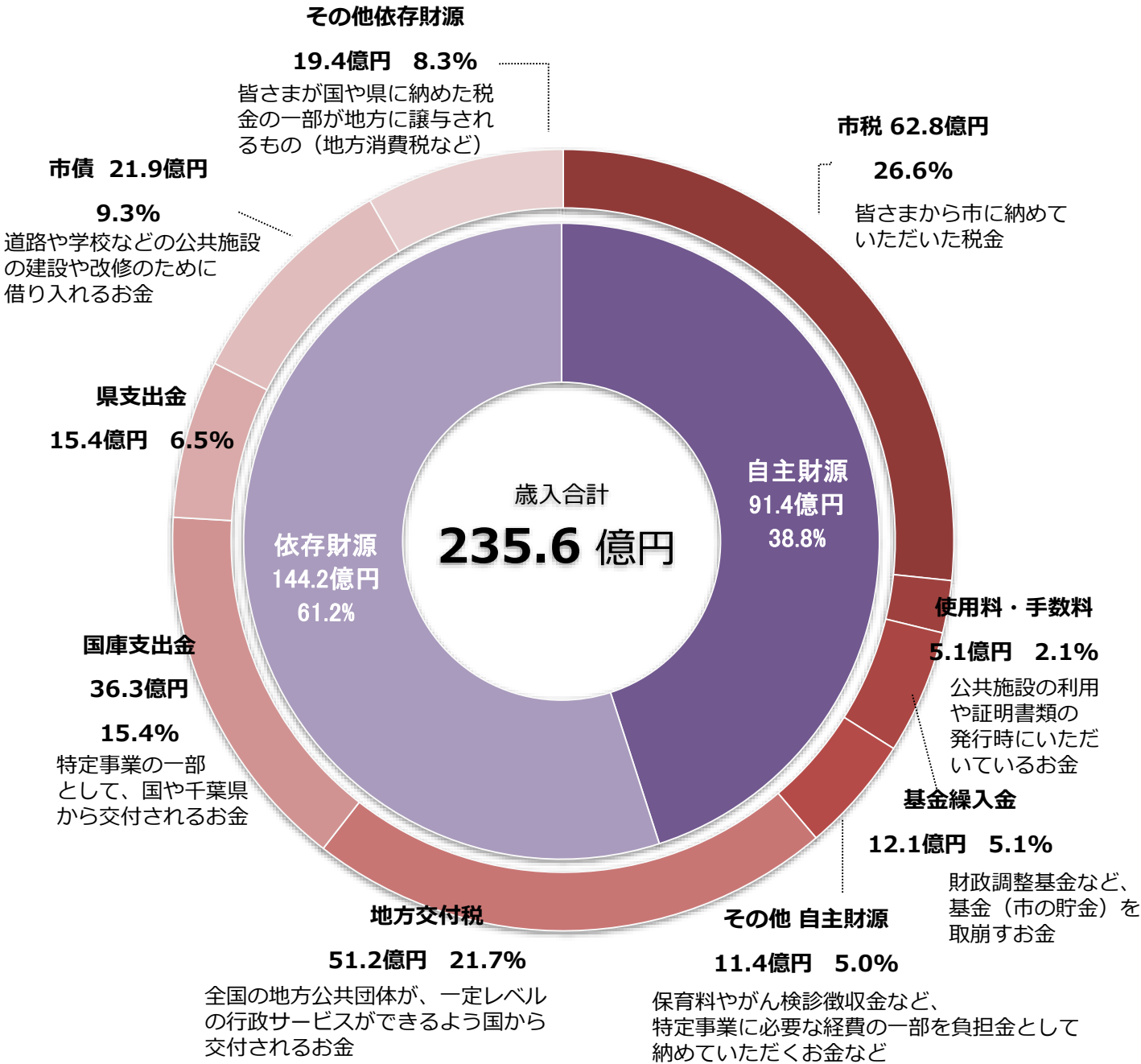
▼特別会計予算について

高齢化の進行などによる医療費や介護サービス費の増加により、平成29年度まで年々増加傾向にありました。

平成30年度には、国民健康保険の都道府県化に伴う制度改革により、国民健康保険特別会計の額が大幅に減少したものの、今後は再び増加していくものと見込まれます。

※令和2年度から下水道事業は公営事業会計方式に変更され、独立した会計となりました。

一般会計歳入



自主財源と特定財源

自主財源 … 市が自主的に調達できる収入です。自治体財政運営の体力と言われ、その割合が大きいほど自立した財政運営が可能となります。

依存財源 … 国や県など、外的な要因に頼る収入です。館山市は、自主財源より依存財源の割合の方が高くなっています。

市税収入の内訳

個人市民税	22.8億円	市民の皆さまから、給与などの所得を基準に納めていただく税
法人市民税	3.0億円	市内に事業所がある法人に納めていただく税
固定資産税	25.4億円	市内に土地・家屋及び償却資産を有している人に納めていただく税
市たばこ税	3.7億円	市内でたばこを買った方に納めていただく税
軽自動車税	1.8億円	軽自動車や原動機付自転車などを所有している人から納めていただく税
都市計画税 【目的税】	5.2億円	都市計画区域内（館山市は市内全域が指定）にある土地・建物に対して課税
入湯税 【目的税】	0.4億円	鉱泉浴場における入浴に対し課税

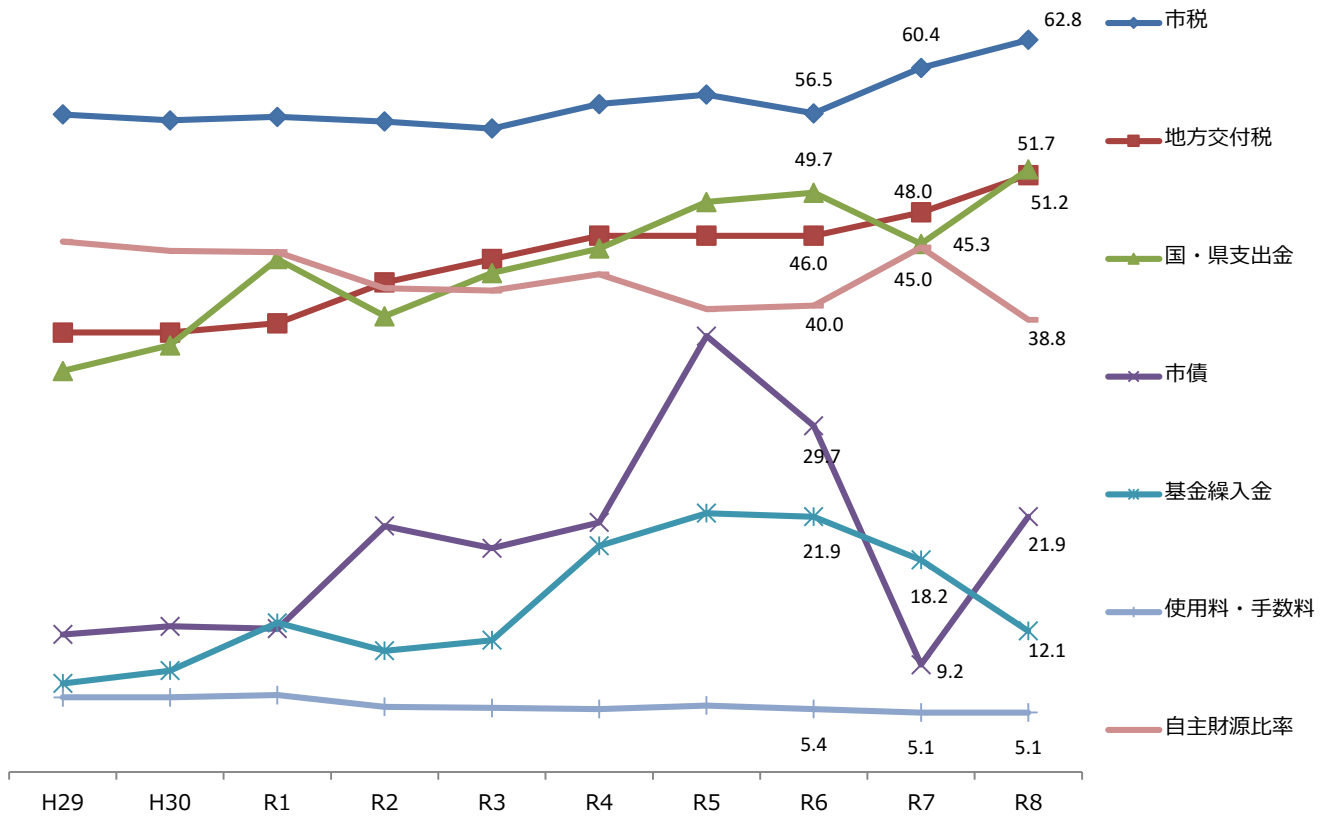
【目的税の使いみち】

都市計画税と入湯税は「目的税」と言われ、使いみちが定められています。

都市計画税	都市計画事業に要する費用に充当	船形館山線道路整備事業、公共下水道整備事業、過去に実施した都市計画事業の市債返済など
入湯税	観光振興事業や消防施設整備などに要する費用に充当	観光イベント事業や消防機材の購入費用など

歳入予算の推移

(単位：億円)
※自主財源比率は%



【ポイント】

●市税収入の増加

近年の給与上昇等による増収が見込まれます。そのほか、固定資産税及び都市計画税においては、「土地」、「家屋」及び「償却資産」では過去の実績や近年の社会情勢から増収を見込みました。

●地方交付税・国県支出金は、年度間で大きく変動

国の政策や国・県補助事業の実施状況により、年度間で変動します。

●市債（借金）の増加

学校再編に伴う館山小学校・北条小学校の施設改修事業や、船形バイパス整備事業などの大型事業を実施するため、前年度から12.7億円の増となりました。

この結果、令和8年度末の市債残高は、約233.9億円と見込まれ、前年度末見込みと比較して約5億円、2%の増となります。

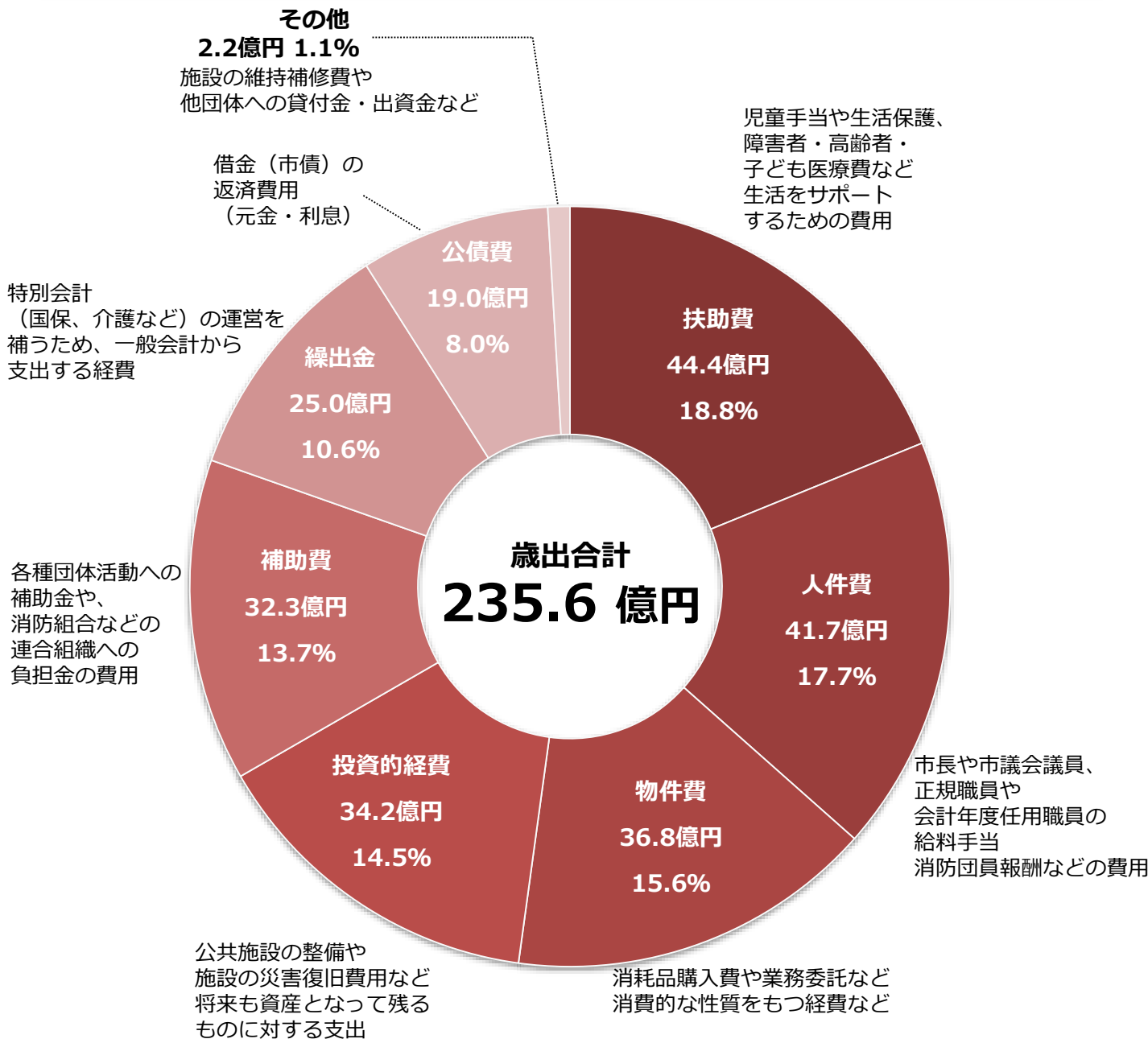
一般会計歳出

歳出は、

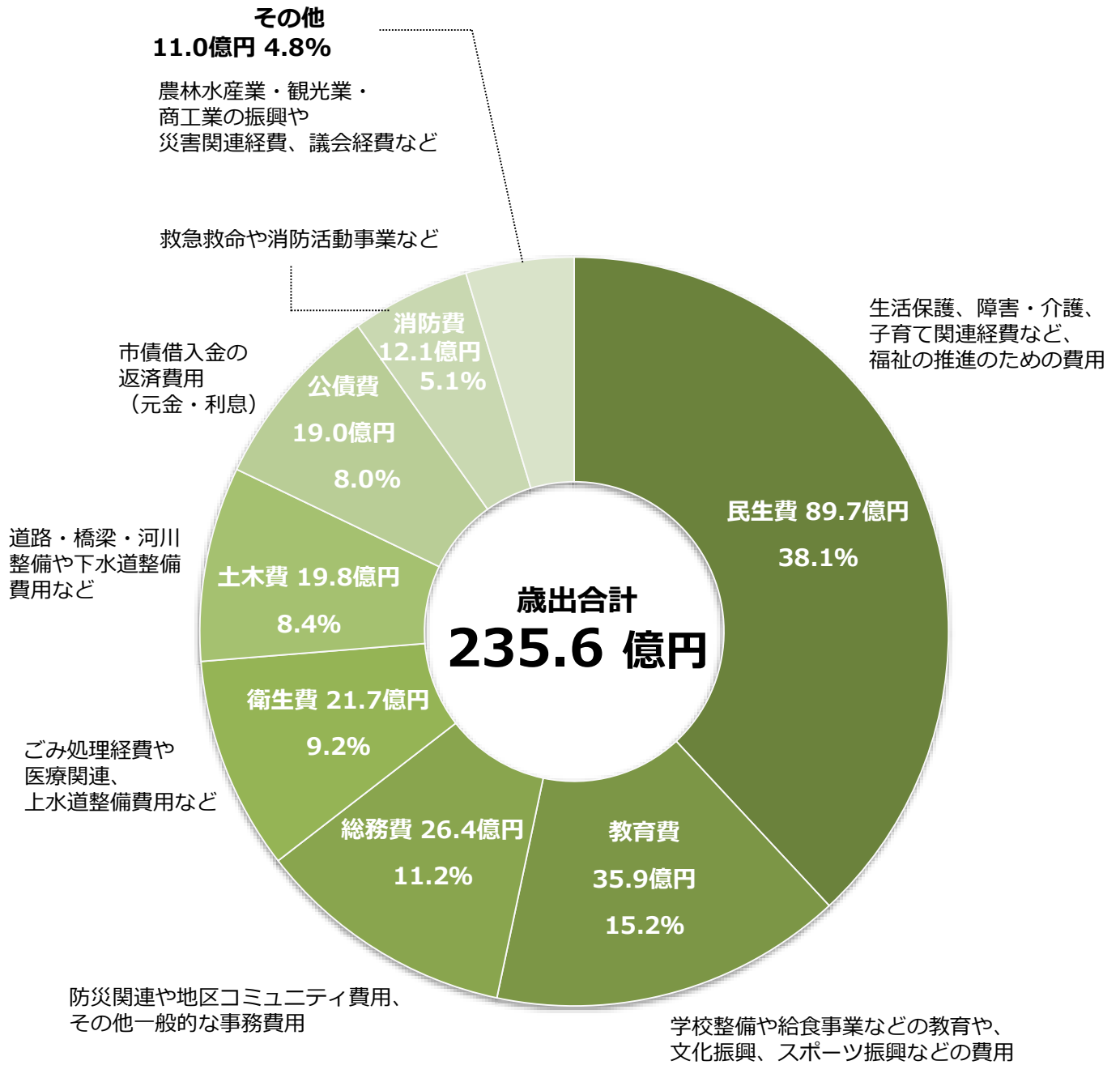
- ・どのような性格の経費として使われているのか（性質別）
- ・どのような分野の行政サービスに使われているのか（目的別）

2つの分類方法から見ることができます。

【性質別】一般会計予算額

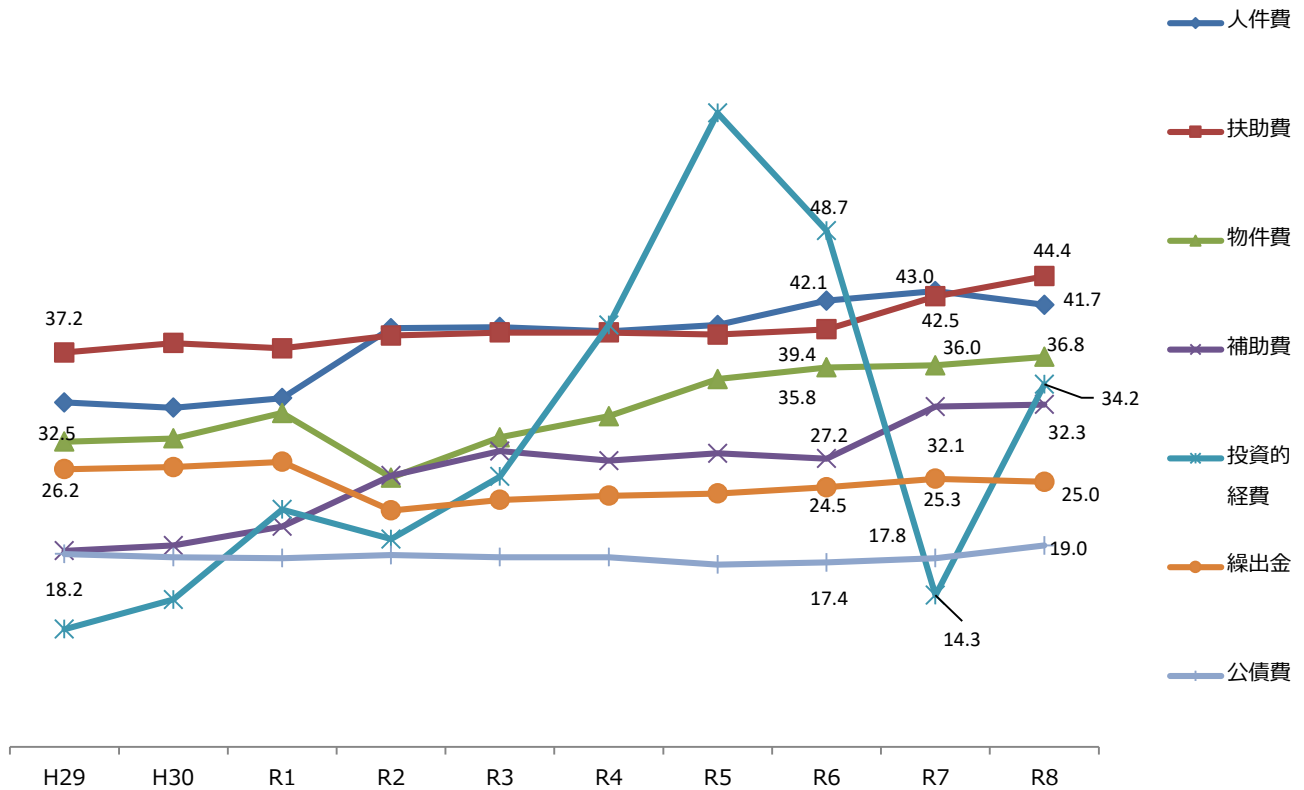


【 目的別 】 一般会計予算額



歳出予算の推移

(単位：億円)



【ポイント】

● 社会保障関連経費（扶助費）の増加

高齢化による医療関連経費や介護関連経費の増、国全体における物価上昇等により増加しています。

● 人件費の増加

国の人事院勧告に基づく市職員の給与改定による増となっています。

● 投資的経費の増加

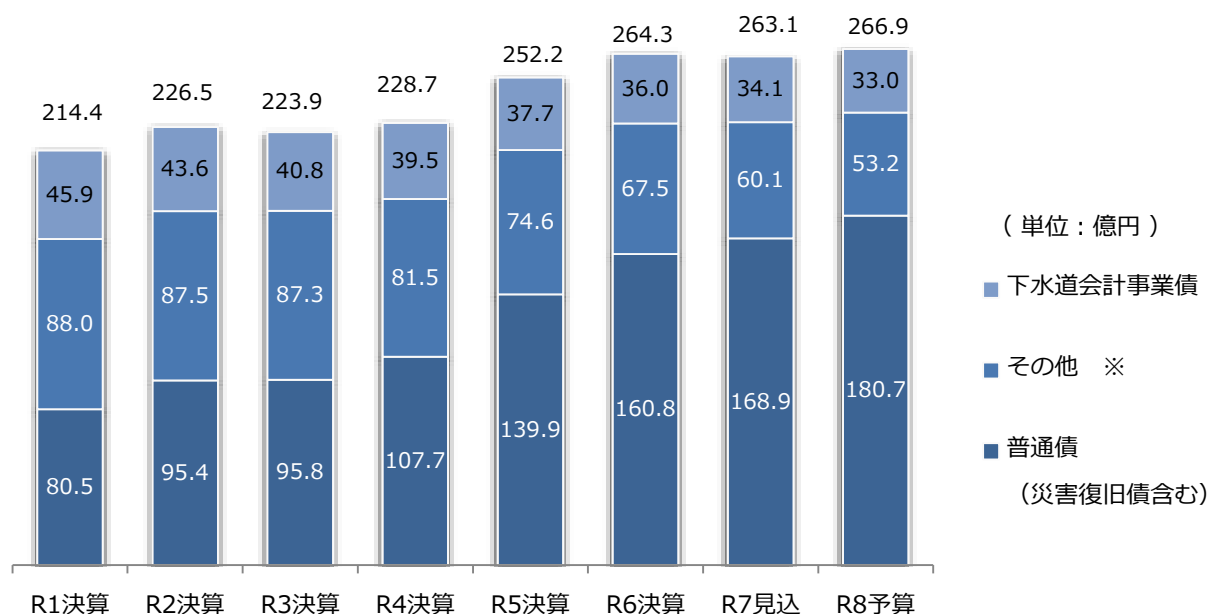
学校再編に伴う館山小学校・北条小学校の施設改修事業や、船形バイパス整備事業などの大型事業を実施するため大幅な増となっています。投資的経費は、大規模な公共事業の実施状況により、年度間で増減が生じます。

市債（借金）と基金（貯金）

市債の役割

単年度の財源確保	大規模な建設事業を実施した年でも、その財源（収入）を確保することで、他の行政サービスを滞りなく実施することができる
世代間負担の公平性	公共施設の整備は、将来使用する（便益を受ける）住民にも、その返済費用を負担してもらうことで、世代間の公平性が確保される

市債残高の推移



※その他は、臨時財政対策債、減税補てん債等の合計

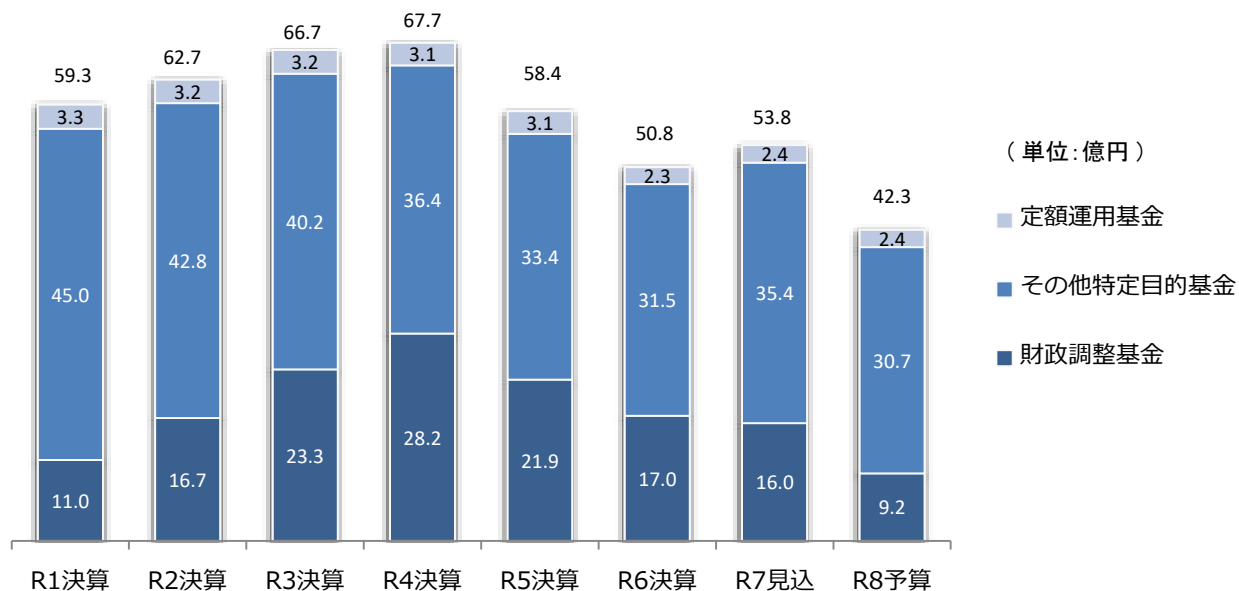
学校再編に伴う館山小学校・北条小学校の施設改修事業や、船形バイパス整備事業などの大型事業を実施するため、普通債は前年度から11.8億円の増となりましたが、臨時財政対策債、減税補てん債等の合計が6.9億円減額となりました。

この結果、令和8年度末の市債残高は、約266.9億円と見込まれ、前年度末見込みと比較して3.8億円、約1.4%の増となります。

基金の種類と役割

財政調整基金	年度間の財政の不均衡を調整し、安定した財政運営を行うための基金 急激な収支減少や災害時などの不足の事態に備えるもので、「自治体財政運営のかなめ」と言える
その他特定目的基金	特定の用途を定めて積立てる基金 (庁舎建設基金、観光振興基金、環境保全基金、子ども・子育て支援基金など)
定額運用基金	定額を積立て、資金を運用する基金 (土地開発基金、看護師等修学資金貸付基金など)

基金残高の推移



食のまちづくり拠点施設費や館山港修築工事負担金等について「前澤友作館山応援基金」から繰入れを行うほか、ふるさと納税を原資とした「フレフレ・たてやま応援基金」や「子ども・子育て支援基金」、「減債基金」など各種特定目的基金から合わせて約5.2億円の繰入れを行います。

また、不足する財源については、「財政調整基金」から約6.9億円（前年度比約3.5億円減）の繰入れを行うこととし、基金残高は総額約42.3億円（前年度比約11.5億円減）となる見込みです。

館山市の財政を家計に例えると

館山市の家計簿

一般会計決算を、家庭の総収入300万円（1か月25万円）の家計に例えて説明します。

収 入（1ヶ月）	
給与（市税収入）	6.7万円
手当（使用料など）	3.8万円
貯金取崩し（基金繰入金）	1.3万円
親からの援助 （地方交付税・国県支出金）	10.9万円
銀行からの借入（市債）	2.3万円
合計	25.0万円

支 出（1ヶ月）	
食費（人件費）	4.4万円
医療費（扶助費）	4.7万円
ローン返済（公債費）	2.0万円
水道光熱費（物件費）	3.9万円
交際費（補助費）	3.4万円
リフォーム（投資的経費）	3.6万円
こどもへの仕送り（繰出金）	2.7万円
貯金（基金繰出金）	0.2万円
貸付金など（貸付金、出資金）	0.1万円
合計	25.0万円

【現状】

「給与」や「手当」のほか、「親からの援助」に頼っている状況です。

【改善点】

「給与・手当」を少しでも増やすことが重要です。

また、「銀行からの借入」は、後年度の返済を見通して、計画的に行う必要があります。

【現状】

「食費」や「医療費」などの固定費が大きな割合を占めており、自分の裁量で使用できるお金はそれほど多くありません。

【改善点】

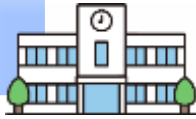
日々の節約を基本に、大きな買い物は計画的に行ったり、建物を適正規模にして、水道光熱費やリフォーム代を抑えるなど、中長期的な視点からライフスタイルを見直し、上手にやり繰りしていくことが重要です。

また、万が一の災害等に備えた準備も必要です。

これからの行財政運営のために

将来の心配事…

公共施設の老朽化



更なる少子高齢化による
福祉・医療費等の増加



「ゆとり」のない
行財政運営



人口減少による
税収などの伸び悩み



人口減少社会においても、幅広い市民ニーズに対応し、
安定的に行政サービスを提供し続けるためには、
社会状況にあわせた持続可能な行財政運営が必要です。

行財政運営の健全化
(公共施設等の最適化)



持続可能な
地域づくりの推進



安定的で質の高い
行政サービスの提供
(市役所組織の改革)



地域経済の成長と
循環、所得増加の
好循環



行財政改革の取組み

市では今後の中長期的な財政予測や、現状の課題点を踏まえ、令和5年3月に策定した「**第4次館山市行財政改革方針**」に基づき、行財政改革に資する具体的施策に取り組んでいます。

取組の種類	内 容
持続可能な財政運営	<ul style="list-style-type: none">○健全な財政基盤の確立○自主財源等の歳入確保○地域経済の活性化○歳出改革と将来負担の軽減
公共施設等の 管理・運営の最適化	<ul style="list-style-type: none">○公共施設マネジメントの推進○脱炭素化への取り組み○民間活力を生かした公共施設等の管理運営
行政サービスの質の向上と 効率化・DXの活用	<ul style="list-style-type: none">○戦略的な組織体制の構築○市政に参加しやすい環境づくり・市民協働の推進○住民サービスの向上○情報ネットワークの強化・ICTを活用した サービスの向上

令和8年度の主な事業

教育環境の整備・充実

事業費		14億3,337万円	館山市立小中学校再編計画に基づき、統合校開校に向けて施設の改修等を行います。
財源	国・県	5,562万円	
	市債	12億2,380万円	
	他	—	
	市	1億5,395万円	

事業費		1億4,804万円	「館山市立小中学校再編計画」に基づく学校の統廃合に伴う通学を支援するためスクールバスを購入します。
財源	国・県	2,340万円	
	市債	1億 350万円	
	他	—	
	市	2,114万円	

生活と命を守る

事業費		40万円	消防団員の準中型免許取得費用に対する補助を行い、消防力の強化を図ります。
財源	国・県	—	
	市債	—	
	他	—	
	市	40万円	

事業費		50万円	がん治療に伴う外見変化を補う補正具の購入に要する費用等の一部を助成します。
財源	国・県	25万円	
	市債	—	
	他	25万円	
	市	—	

出産・子育て支援

事業費		2億 597万円	小学校の再編に合わせ規模（定員）を拡大し学童クラブを運営するため、新たな施設を整備します。
財源	国・県	1億3,480万円	
	市債	5,030万円	
	他	2,087万円	
	市	—	

事業費		925万円	官民が一体となって、観光地域づくりの司令塔である「観光地域づくり法人（DMO）」の設立に向けた準備を進めます。
財源	国・県	—	
	市債	—	
	他	925万円	
	市	—	

本書について、ご意見等ございましたら
下記までお気軽にお寄せください。

館山市の家計簿
令和8年度 当初予算版

令和8年4月作成
館山市総務企画部行革財政課
T E L 0470-22-3291
F A X 0470-23-3115
E-Mail gyouzai@city.tateyama.chiba.jp